

口腔外科的治療学（AST : Advanced Surgical Treatment）

担当講座（分野）：薬理学講座（病態制御学分野）
口腔顎顔面再建学講座（臨床病理学分野）
口腔顎顔面再建学講座（口腔外科学分野）
口腔顎顔面再建学講座（歯科放射線学分野）

第4学年 後期

講義/演習
後期 123時間

学修方針（講義概要等）

口腔外科的治療学は、口腔に発症する様々な疾患を理解した上で、それぞれの疾患にたいする治療法を学ぶ学習コースである。疾患の診断に必須となる画像診断学や病理学の知識も併せて習得する。治療は正確な診断に基づいて行われる必要があるため、これまでの知識を統合し再確認しながら、各口腔疾患の治療方針を構築する能力を養う。

教育成果（アウトカム）

これまでに学習した人体の解剖学や病理学、薬理学の知識を統合し、口腔病変の病態や診断および口腔外科学的な処置・治療に関する知識・技能・態度を学ぶことで、顎口腔領域に疾患をもつ患者を適切に治療できるようになる。（ディプロマポリシー：1、5、9）

事前学習内容及び事前学習時間

シラバスに記載されている次の授業内容を確認し、教科書等を用いて事前学習を行うこと。毎回原則としてレポート用紙半分程度の分量で学習した内容を提出予定のノートにまとめることとする。本内容は全授業に対して該当するものとし、各回最低30分を要する。

講義/演習日程

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
8月29日(月) 1限	小川 淳准教授 (口腔外科学)	医療面接と診察法 顎・口腔外科の診療において必要な医療面接の知識を習得する。	1. 医療面接を概説し、その重要性について説明できる。 2. 医療面接で収集・留意すべき情報を列挙できる。 3. 診察法の種類を列挙その概略を説明できる。 [F-2-1)-①～⑦] 事前学習：最新口腔外科学第5版を参照し、事前学習の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
8月29日(月) 2限	小川 淳准教授 (口腔外科学)	主要症候 口腔外科疾患における主要な症候を理解し、診断に必要な知識を習得する。	1. 主要な症候とその概略を説明できる。 2. 主要な症候の原因、病理を説明できる。 3. 主要な症候を有する主な疾患を列挙できる。 [E-1-1)-①～⑤] 事前学習:最新口腔外科学第5版 P26～44 を参照し、事前学習の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
8月29日(月) 3限	大橋祐生講師 (口腔外科学)	基本的検査法 1 顎・口腔外科の診察において必要な検査法を習得する。	1. 基本的な検査法を挙げ、その概略を説明できる。 2. 基本的な検査法の臨床的意義を説明できる。 3. 各臨床検査の基準値を述べ、異常値の意味を説明できる。 [E-1-1)-⑥、E-1-3)-①～⑤] 事前学習:最新口腔外科学第5版を参照し、事前学習の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
8月29日(月) 4限	武田泰典教授 (臨床病理学)	基本的検査法 2 病理検査法 病理診断 1 口腔領域に発症する疾患の診断を適切に行うために、病理学的所見の基礎的知識を習得する。	1. 検体検査の種類を列挙できる。 2. 病理検査の種類を列挙できる。 3. 病理検査の意義と特異性を説明できる。 4. 検体採取から診断依頼までの過程と注意事項を説明できる。 5. 標本作製から診断までの過程を説明できる。 [C-5-2)-①～④、C-5-3)-①～⑤、C-5-4)-①～⑥、C-5-6)-①～⑥] 事前学習:新口腔病理学第2版 323-330 頁を読み、3 学年時に学んだ知識を整理しておくこと。
8月30日(火) 1限	泉澤 充准教授 (歯科放射線学)	基本的検査法 3 画像診断学 1 基礎 口腔領域に発症する疾患の治療を適切に行うために、画像診断所見の記載方法を習得する。	1. 読影所見の記載方法を列記できる。 2. 歯根嚢胞を例として、読影所見を記述できる。 3. 歯および歯周組織疾患の X 線所見を述べられる。 [E-1-2)-⑦]
8月30日(火) 2限	泉澤 充准教授 (歯科放射線学)	基本的検査法 4 画像診断学 2 基礎 口腔領域に発症する疾患の治療を適切に行うために、MRI 読影に必要な基礎的知識を習得する。	1. T1 強調像、T2 強調像、プロトン強調像造影撮像について説明できる。 [E-1-2)-⑨]

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
8月30日(火) 3限	川井 忠講師 (口腔外科学)	基本的検査法5 全身状態の評価 口腔外科処置を行うにあたって、全身状態を評価し、施術可能かどうかを判断できる知識を習得する。	1. 歯科治療に際して留意すべき全身状態を列挙できる。 2. 全身状態を評価するために必要な検査項目を列挙できる。 3. 全身状態を評価するために必要な検査項目を説明できる。 [E-1-3)-①～⑤、E-1-4)-(1)-①～⑥] 事前学習：最新口腔外科学第5版 P45～104を参照し、事前学習の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
8月30日(火) 4限	斎藤勇起助教 (口腔外科学)	復習講義1	1. これまでの学習を振り返り、重要事項を再確認しながらノートにまとめる。
8月31日(水) 1限	飯島 伸 非常勤講師 (口腔外科学)	先天異常・後天異常1 顔面・口腔の奇形 先天性・後天性異常の概念、成因、発生との関連について理解し、奇形に関する知識を習得する。	1. 先天異常・後天異常の概念と成因について説明できる。 2. 顔面・口腔の発生と先天異常との関連について説明できる。 3. 顔面・口腔の奇形の種類を列挙できる。 4. 口唇裂の発生率、裂型、症状、治療法を説明できる。 5. 口蓋裂の発生率、裂型、症状、治療法を説明できる。 [E-2-3)-①～③、E-2-4)-(1)-①～②] 事前学習：最新口腔外科学第5版 P126～137を参照し、事前学習の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
8月31日(水) 2限	山田浩之教授 阿部亜希 研究員 (口腔外科学)	特別講義1 岩手県立中央病院歯科口腔外科の臨床	医師と連携するために必要な医学的知識を実際の臨床に即して学ぶ。 [E-6]
8月31日(水) 3限	大橋祐生講師 (口腔外科学)	先天異常・後天異常2 顎の異常 顎の先天性・後天性異常に関する知識を習得する。	1. 主要な顎形態異常を列挙できる。 2. 主要な顎変形症の症状を説明できる。 3. 主要な顎変形症の診断法を説明できる。 4. 主要な顎変形症の治療法を説明できる。 [E-2-4)-(1)-③] 事前学習：最新口腔外科学第5版 P139～147を参照し、事前学習の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
8月31日(水) 4限	大橋祐生講師 (口腔外科学)	先天異常・後天異常3 軟組織の異常 顎・口腔に異常を現す症候群と系統的骨疾患 先天性・後天性の軟組織の異常ならびに顎・口腔に異常を現す症候群と系統的骨疾患に関する知識を習得する。	1. 主要な軟組織の異常と治療法を説明できる。 2. 顎口腔に異常を現す主要な症候群と系統的骨疾患を列挙し症状を説明できる。 3. 主要な症候群と系統的骨疾患の診断法を説明できる。 [E-2-4)-(1)-④、E-2-4)-(10)-⑤～⑥] 事前学習：最新口腔外科学第5版 P109～126、138～139)を参照し、事前学習の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
9月1日(木) 1限	山谷元気講師 (口腔外科学)	顎顔面の損傷1 総論 口腔顎顔面領域に見られる損傷の概念、症状、治療について習得する。	1. 損傷の種類を列挙できる。 2. 損傷の症状を概説できる。 3. 損傷の治療法を概説できる。 [E-2-4)-(2)-(①~②)] 事前学習:最新口腔外科学第5版P149~173、731~740を参照し、顎口腔領域の損傷(硬組織及び軟組織)について学習した内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
9月1日(木) 2限	山谷元気講師 (口腔外科学)	顎顔面の損傷2 軟組織の損傷・合併損傷 顔面および口腔軟組織損傷の診断法と治療について理解する。 口腔顎顔面外傷の合併傷の診断法と治療法について習得する。	1. 軟組織損傷を分類し、それぞれの症状、処置法および治療過程を説明できる。 2. 軟組織損傷の治療原則を説明できる。 3. 口腔顎顔面外傷の合併症の種類と特徴を説明できる。 4. 合併傷を分類し、それぞれの処置法、症状および処置法を説明できる。 [E-2-4)-(2)-(⑤)] 事前学習:最新口腔外科学第5版P149~173、731~740を参照し、顎口腔領域の損傷(硬組織及び軟組織)について事前学習の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
9月1日(木) 3限	宮本郁也教授 (口腔外科学)	顎顔面の損傷3 歯の外傷・歯槽骨骨折 歯の損傷および歯槽骨骨折の診断法と治療について修得する。	1. 歯の損傷の種類と特徴および治療過程を説明できる。 2. 歯の損傷の診断と治療法を説明できる。 3. 歯槽骨骨折の診断と治療法を説明できる。 [E-2-4)-(2)-(③)] 事前学習:最新口腔外科学第5版P149~173、731~740を参照し、顎口腔領域の損傷(硬組織及び軟組織)について事前学習の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
9月1日(木) 4限	宮本郁也教授 (口腔外科学)	顎顔面の損傷4 顎骨骨折ほか 顎顔面骨折の診断と治療について習得する。	1. 顎顔面領域の骨折の特徴および治療過程を説明できる。 2. 顎顔面骨折の原因と種類を列挙できる。 3. 上顎骨骨折、下顎骨骨折、頬骨・頬骨弓骨折および鼻骨骨折の症状と検査法を列挙し、診断と治療法を説明できる。 [E-2-4)-(2)-(④)] 事前学習:最新口腔外科学第5版P149~173、731~740を参照し、顎口腔領域の損傷(硬組織及び軟組織)について事前学習の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
9月2日(金) 1限	川井 忠講師 (口腔外科学)	炎症 1 顎口腔の炎症 総論 炎症の概念を理解し、歯 性感染症に関する知識を 習得する。	1. 炎症の概念・種類を説明できる。 2. 炎症の症状、診断法、治療法を説明でき る。 3. 歯性感染症の概念を説明できる。 4. 歯性感染症の概念と感染経路を説明でき る。 5. 急性炎症と慢性炎症の差異を説明でき る。 [E-2-4)-(3)-①～⑥] 事前学習：最新口腔外科学第5版 P174 ～198を参照し、事前学習の内容を提出 予定のノートにまとめておくこと。
9月2日(金) 2限	川井 忠講師 (口腔外科学)	炎症 2 組織間隙と支配血管 顎顔面領域の組織隙につ いて習得する。 選択的動注化学療法に必 要な血管の走行について 習得する。	1. 口底蜂窩織炎の波及について筋隙の観 点から解剖学的に説明できる。 2. 翼突下顎隙を解剖学的に説明できる。 3. 頭頸部の動脈の走行を説明できる。 4. 超選択的動注化学療法に必要な全身の血 管の走行を説明できる。 [C-3-4)-(3)-①、C-3-4)-(4)-②] 事前学習：最新口腔外科学第5版 P174～198 を参照し、事前学習の内容を提出予定のノ ートにまとめておくこと。
9月2日(金) 3限	中山温史 非常勤講師 (口腔外科学)	特別講義 2 岩手県立磐井病院歯科口 腔外科の臨床	1. 医師と連携するために必要な医学的知識 を実際の臨床に即して学ぶ。 [E-6]
9月2日(金) 4限	武田泰典教授 (臨床病理学)	炎症 3 病理診断 2 炎症 口腔領域に発症する疾患 の診断を適切に行うため に、炎症と粘膜疾患の病 理組織像を習得する。	1. 炎症の定義と分類を説明できる。 2. 滲出性炎の分類と特徴を説明できる。 3. 増殖性炎の特徴を説明できる。 4. 免疫応答による炎症を説明できる。 5. 炎症に関与する細胞の形態と機能を説明でき る。 6. 炎症巣の治癒について説明できる。 [C-5-5)-①～④] 事前学習：スタンダード病理学 110-140 頁 を読み、3学年時に学んだ知識を整理して おくこと。
9月5日(月) 1限	泉澤 充准教授 (歯科放射線学)	炎症 4 画像診断学 3 骨折・炎症 口腔領域の外傷・骨折や 上顎洞疾患の適切な治療 を行うため、臨床症状や 画像診断・病理診断を基 にした総合的診断の知 識・技能を習得する。	1. 以下の疾患の臨床症状と各種画像所見に ついて説明できる。 急性骨髄炎・慢性骨髄炎・Garre 骨髄炎・ 放射線性骨髄炎・放射線性骨壊死・BRONJ・ 上顎洞炎・上顎洞真菌症・上顎洞粘液貯留 嚢胞・術後性上顎嚢胞・上顎洞癌・上顎骨 骨折・下顎骨骨折 [E-1-2)-⑥～⑨]

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
9月5日(月) 2限	山谷元気講師 (口腔外科学)	炎症5 特異性炎 歯性全身感染症 顎・口腔顔面領域における特異性炎および歯性感染症が全身に及ぼす影響に関する知識を習得する。	1. 特異性炎の概念を説明できる。 2. 顎・口腔顔面領域にみられる特異性炎の種類を列挙できる。 3. 主要な特異性炎の原因菌を列挙できる。 4. 主要な特異性炎の症状、検査法、治療法を説明できる。 5. 歯性病変と全身感染症との関連について説明できる。 6. 菌血症と敗血症の病態を説明できる。 7. 歯性病巣感染の病態を説明できる。 [E-2-4)-(3)-③~⑦] 事前学習:最新口腔外科学第5版 P206~213を参照し、事前学習の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
9月5日(月) 3限	川井 忠講師 (口腔外科学)	炎症6 歯周組織の炎症 顎骨の炎症 各種顎骨の炎症に関する知識を習得する。	1. 歯周組織の病態、症状、治療法を説明できる。 2. 歯冠周囲炎(智歯周囲炎を含む)の発症原因、症状、診断、治療について説明できる。 3. 歯槽骨炎と顎骨炎の病態、症状、診断、治療について説明できる。 4. 顎骨骨髓炎の分類について説明できる。 5. 急性顎骨骨髓炎の症状、経過、治療法について説明できる。 [E-2-4)-(3)-⑥] 事前学習:最新口腔外科学第5版 P174~198を参照し、事前学習の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
9月5日(月) 4限	川井 忠講師 (口腔外科学)	炎症7 顎骨周囲組織の炎症 蜂窩織炎 歯性上顎洞炎 顎骨周囲組織の炎症および歯性上顎洞炎の治療に必要な知識を習得する。	1. 顎骨周囲・頸部の組織隙を列挙できる。 2. 顎骨周囲・頸部の組織隙の位置を説明できる。 3. 軟組織炎症の症状を説明できる。 4. 蜂窩織炎と膿瘍の違いを説明できる。 5. 軟組織炎症の検査法と治療法を説明できる。 6. 歯性上顎洞炎の成因、検査法、治療法を説明できる。 [C-3-4)-(3)-①、C-3-4)-(4)-②] 事前学習:最新口腔外科学第5版 P174~198を参照し、事前学習の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
9月6日(火) 1限	斎藤勇起助教 (口腔外科学)	復習講義2	1. これまでの学習を振り返り、重要事項を再確認しながらノートにまとめる。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
9月6日(火) 2限	武田泰典教授 (臨床病理学)	口腔粘膜疾患 1 病理診断 3 口腔粘膜疾患の診断や病態把握を適切に行うために、口腔粘膜疾患の病理所見を習得する。	1. 正常な口腔粘膜の形態と上皮の機能について説明できる。 2. 細胞異型や組織異型、上皮性異形成について説明できる。 3. 水疱性疾患、角化性疾患、色素沈着などの口腔粘膜疾患の病理組織像を説明できる。 [C-5-6)-①～⑥、E-2-4)-(4)-①②] 事前学習：新口腔病理学第2版143-168頁を読み、3学年時に学んだ知識を整理しておくこと。
9月6日(火) 3限	小川 淳准教授 (口腔外科学)	口腔粘膜疾患 2 総論 口内炎およびアフタ性病変 口腔粘膜の解剖学的特徴について学習し、口内炎およびアフタ性病変に関する知識を習得する。	1. 口腔粘膜の解剖学的構造について説明できる。 2. 口内炎やアフタの成因、症状について説明できる。 3. 口内炎やアフタの治療法について説明できる。 [E-2-4)-(4)-①②] 事前学習：最新口腔外科学第5版P214～234、243～251を参照し、事前学習の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
9月6日(火) 4限	小川 淳准教授 (口腔外科学)	口腔粘膜疾患 3 水疱性疾患 ウイルス性疾患 水疱性疾患およびウイルス性疾患に関する知識を習得する。	1. 口腔粘膜に発症する水疱性疾患を列挙し、その特徴について説明できる。 2. 口腔粘膜に発症する水疱性疾患の治療法について説明できる。 3. 口腔粘膜に発症するウイルス性疾患を列挙し、その特徴について説明できる。 4. 口腔粘膜に発症するウイルス性疾患の治療法について説明できる。 [E-2-4)-(4)-①②] 事前学習：最新口腔外科学第5版P214～234、243～251を参照し、事前学習の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
9月7日(水) 1限	古城慎太郎 講師 (口腔外科学)	腫瘍 1 総論 口腔領域に発生する腫瘍に関する知識を習得する。	1. 一般的な腫瘍の特徴や性質を説明できる。 2. 良性腫瘍と悪性腫瘍の違いを説明できる。 [E-2-4)-(6)-①～③] 事前学習：最新口腔外科学第5版P292～327、341～362を参照し、事前学習の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
9月7日(水) 2限	山田浩之教授 (口腔外科学)	腫瘍3 歯原性腫瘍 歯原性腫瘍の種類を把握し、発生病因、臨床症状、病理組織像、診断、治療法を習得する。	1. 歯原性腫瘍を列挙し分類できる。 2. 歯原性良性腫瘍の一般的な臨床症状を説明でき、診断に必要な検査を挙げ、その概略を説明できる。 3. 歯原性良性腫瘍の一般的な治療法を説明できる。 [E-2-4)-(6)-①~③] 事前学習：最新口腔外科学第5版 P292~327を参照し、事前学習の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
9月7日(水) 3限	古城慎太郎 講師 (口腔外科学)	腫瘍2 総論 口腔領域に発生する歯原性腫瘍と非歯原性腫瘍に関する知識を習得する。	1. 口腔領域に発症する歯原性腫瘍を列挙し、その特徴について説明できる。 2. 口腔領域に発症する非歯原性腫瘍を列挙し、その特徴について説明できる。 [E-2-4)-(6)-①②] 事前学習：最新口腔外科学第5版 P292~340、762~775を参照し、事前学習の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
9月7日(水) 4限	中里滋樹 非常勤講師 (口腔外科学)	特別講義3 インプラント臨床の実際	1. これまでに経験したインプラント治療症例において長期経過観察した症例について詳細を説明できる。 [E-3-4)-(3)-①~⑤]
9月8日(木) 1限	泉澤 充准教授 (歯科放射線学)	腫瘍4 画像診断学4 腫瘍 口腔領域に発生する良性歯原性・非歯原性腫瘍の適切な治療を行うため、臨床症状や画像診断・病理診断を基にした総合的診断の知識・技能を習得する。	1. 以下の疾患の臨床症状と各種画像所見について説明できる。 エナメル上皮腫・角化嚢胞性歯原性腫瘍・石灰化上皮性歯原性腫瘍・石灰化嚢胞性歯原性腫瘍・腺腫様歯原性腫瘍・歯原性粘液腫・エナメル上皮線維歯牙腫・エナメル上皮線維腫・歯原性線維腫 [E-1-2)-⑥~⑨]
9月8日(木) 2限	斎藤勇起助教 (口腔外科学)	復習講義3	これまでの学習を振り返り、重要事項を再確認しながらノートにまとめる。
9月8日(木) 3、4限	山田浩之教授 (口腔外科学)	AST 評価試験1	9月8日までに修得した知識を確認する。
9月9日(金) 1限	大橋祐生講師 (口腔外科学)	腫瘍5 口腔潜在的悪性疾患 口腔領域に発生する口腔潜在的悪性疾患に関する知識を習得する。	1. 口腔潜在的悪性疾患の概念を説明できる。 2. 口腔潜在的悪性疾患の種類を列挙できる。 3. 口腔潜在的悪性疾患の診断と治療法について説明できる。 [C-5-6)-③、E-2-4)-(6)-⑤⑥] 事前学習：最新口腔外科学第5版 P235~343、363~366を参照し、事前学習の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
9月9日(金) 2限	大橋祐生講師 (口腔外科学)	腫瘍6 癌腫 顎顔面口腔領域に発生する上皮性の悪性腫瘍に関する知識を習得する。	1. 非歯源性悪性腫瘍の分類について概説できる。 2. 悪性腫瘍の特徴について概説できる。 3. 口腔癌の臨床症状を説明できる。 4. 口腔癌の各種画像所見を説明できる。 5. 口腔癌の病理組織像について説明できる。 6. 口腔癌の治療、予後について説明できる。 [E-2-4)-(6)-③] 事前学習：最新口腔外科学第5版 P341～365を参照し、事前学習の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
9月9日(金) 3限	泉澤 充准教授 (歯科放射線学)	腫瘍7 画像診断学5 悪性腫瘍 口腔領域に発症する悪性腫瘍と骨髄炎の適切な治療を行うため、臨床症状や画像診断・病理診断を基にした総合的診断の知識・技能を習得する。	1. 以下の疾患の臨床症状と各種画像所見について説明できる。 下顎歯肉癌・舌癌・口腔底癌・上顎歯肉癌・上顎洞癌・頬粘膜癌・骨肉腫・悪性黒色腫・悪性リンパ腫 [E-1-2)-⑥～⑨]
9月9日(金) 4限	宮本郁也教授 (口腔外科学)	腫瘍8 肉腫、悪性リンパ腫、悪性黒色腫 顎顔面口腔領域に発生する非上皮性の悪性腫瘍に関する知識を習得する。	1. 口腔顎顔面領域に発症する主な悪性腫瘍が列挙できる。 2. 主な肉腫の種類が列挙できる。 3. 主な肉腫の特徴、臨床症状、治療および予後について説明できる。 4. 悪性リンパ腫の特徴、臨床症状、治療および予後について説明できる。 5. 悪性黒色腫の特徴、臨床症状、治療および予後について説明できる。 [E-2-4)-(6)-③] 事前学習：最新口腔外科学第5版 P341～361を参照し、事前学習の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
9月12日(月) 1限	大橋祐生講師 (口腔外科学)	腫瘍9 唾液腺腫瘍 唾液腺腫瘍の症状、診断および治療法を習得する。	1. 唾液腺腫瘍の種類と特徴を説明できる。 2. 唾液腺腫瘍の症状、検査および治療法を説明できる。 [E-2-4)-(8)-④⑤] 事前学習：最新口腔外科学第5版 P378～381、828～832を参照し、事前学習の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
9月12日(月) 2限	大橋祐生講師 (口腔外科学)	腫瘍 10 腫瘍の治療 1 外科療法 顎顔面口腔領域に発生する悪性腫瘍に対する手術の種類、適応、術式について習得する。	1. 悪性腫瘍に対する治療の基本を説明できる。 2. 舌癌の切除法の種類を列挙し、適応を説明できる。 3. 下顎歯肉癌の切除法の種類を列挙し、適応を説明できる。 4. 上顎歯肉癌の切除法の種類を列挙し、適応を説明できる。 5. 頸部郭清術の術式を説明できる。 [E-2-4)-(6)-③] 事前学習：最新口腔外科学第5版 P776～816を参照し、事前学習の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
9月12日(月) 3限	田村晴希講師 (病態制御学)	腫瘍 11 腫瘍の治療 2 抗炎症薬と抗癌剤 炎症および悪性腫瘍に対する治療薬の薬理学的知識を習得する。	1. ケミカルメディエータについて説明できる。 2. 抗炎症薬の作用点について説明できる。 3. 化学療法薬について説明できる。 4. 抗腫瘍性抗生物質について説明できる。 [E-2-4)-(6)-③] 事前学習：最新口腔外科学第5版 551-556頁を読み、薬理学的知識を整理しておくこと。
9月12日(月) 4限	山田浩之教授 (口腔外科学)	腫瘍 12 腫瘍の治療 3 化学療法、その他の治療 顎顔面口腔領域に発生する悪性腫瘍に対する化学療法や免疫療法の種類、適応について習得する。	1. 悪性腫瘍の化学療法について概説できる。 2. 口腔悪性腫瘍に使用する化学療法薬を列挙できる。 3. 化学療法薬の投与法を説明できる。 4. 化学療法薬の副作用を説明できる。 [E-2-4)-(6)-③] 事前学習：最新口腔外科学第5版 P541～578を参照し、事前学習の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
9月13日(火) 1限	泉澤 充准教授 (歯科放射線学)	腫瘍 13 腫瘍の治療 4 放射線治療 口腔癌の治療を適切に行うため、癌の放射線治療の基礎的知識・態度を習得する。	1. 放射線治療における副作用について説明できる。 2. 治療患者の口腔内管理について説明できる。 3. 悪性腫瘍に対する外照射の適応・方法について説明できる。 4. 悪性腫瘍に対する密封小線源照射の適応・方法について説明できる。 [E-2-4)-(6)-③] 事前学習：最新口腔外科学第5版 P541～578を参照し、事前学習の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
9月13日(火) 2限	武田泰典教授 (臨床病理学)	腫瘍 14 病理診断 4 腫瘍 口腔領域に発症する疾患の診断を適切に行うために、腫瘍の病理組織所見を習得する。	1. 腫瘍の総論的事項を説明できる。 2. 口腔領域に生じる腫瘍を組織由来や良悪性によって分類し、それぞれで頻度の高いものを具体的に列挙できる。 3. 口腔領域に生じる腫瘍について、それぞれの病理組織所見を説明できる。 [C-5-6)-①～⑥] 事前学習：新口腔病理学第2版196-211頁を読み、3学年時に学んだ知識を整理しておくこと。
9月13日(火) 3限	宮本郁也教授 (口腔外科学)	嚢胞 1 総論 口腔領域に発生する嚢胞の分類、臨床症状、画像診断、病理組織診断、治療法を習得する。	1. 口腔領域に発生する嚢胞を分類し、その臨床症状が説明できる。 2. 嚢胞の画像所見と病理所見が説明できる。 3. 嚢胞に対する適切な治療が説明できる。 [E-2-4)-(5)-①②] 事前学習：最新口腔外科学第5版P271～291、378を参照し、事前学習の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
9月13日(火) 4限	宮本郁也教授 (口腔外科学)	嚢胞 2 顎嚢胞 軟組織の嚢胞 口腔顎顔面領域に発生する嚢胞の分類、発生病因、診断、治療法を習得する。	1. 顎骨および軟組織に発生する嚢胞を分類し、発生病因と臨床症状、画像検査所見、病理組織所見を述べ、治療方法が説明できる。 2. 様々な嚢胞に対する手術方法が説明できる。 3. 手術器具の種類を列挙し、その使用方法が説明できる。 [E-2-4)-(5)-①②] 事前学習：最新口腔外科学第5版P271～291、378を参照し、事前学習の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
9月14日(水) 1限	泉澤 充准教授 (歯科放射線学)	嚢胞 3 画像診断学 6 口腔領域に発生する嚢胞や偽嚢胞の適切な治療を行うため、臨床症状や画像診断・病理診断を基にした総合的診断の知識・技能を習得する。	1. 以下の疾患の臨床症状と各種画像所見について説明できる。 歯根嚢胞・残留嚢胞・含菌性嚢胞・歯周嚢胞・側方歯周嚢胞・鼻口蓋嚢胞・鼻齒槽嚢胞・単純性骨嚢胞・静止性骨空洞・脈瘤性骨嚢胞 [E-1-2)-⑥～⑨、E-2-4)-(5)-①②]
9月14日(水) 2限	武田泰典教授 (臨床病理学)	嚢胞 4 病理診断 5 嚢胞 口腔領域に発症する疾患の診断を適切に行うために、嚢胞の病理組織所見を習得する。	1. 嚢胞の定義と成り立ちを説明できる。 2. 口腔領域に生じる嚢胞を組織由来や発生部位によって分類し、それぞれに属するものを具体的に列挙できる。 3. 口腔領域に生じる嚢胞について、それぞれの病理組織所見を説明できる。 [E-2-4)-(5)-①②] 事前学習：新口腔病理学第2版182-195頁を読み、3学年時に学んだ知識を整理しておくこと。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
9月14日(水) 3限	山谷元気講師 (口腔外科学)	血液疾患1 赤血球、白血球異常 貧血や白血病の全身的症状と口腔症状との関連について習得する。	1. 赤血球の異常を現す疾患を列挙できる。 2. 貧血について概説できる。 3. 貧血の症状と治療法を説明できる。 4. 白血球の異常を現す疾患を列挙できる。 5. 白血病について概説できる。 [E-2-4)-(10)-①~⑩] 事前学習: 最新口腔外科学第5版 P254~271を参照し、事前学習の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
9月14日(水) 4限	山谷元気講師 (口腔外科学)	血液疾患2 出血性素因 出血性素因に関する知識を習得する。	1. 出血性素因を示す主な疾患を列挙できる。 2. 止血機能のスクリーニング検査項目を列挙できる。 3. 主要な出血性素因の病因、病態、治療法を説明できる。 4. 抗血栓療法について説明し適応疾患を列挙できる。 5. 抗血栓療法薬を列挙できる。 [E-2-4)-(10)-①~⑩] 事前学習: 最新口腔外科学第5版 P254~271を参照し、事前学習の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
9月15日(木) 1限	泉澤 充准教授 (歯科放射線学)	唾液腺1 顎関節1 画像診断学7 唾液腺疾患の適切な治療を行うため、臨床症状や画像診断・病理診断を基にした総合的診断の知識・技能を習得する。	1. 以下の疾患の臨床症状と各種画像所見について説明できる。 唾液腺炎・Sjogren症候群・Mikulicz症候群・唾石・唾液腺腫瘍 [E-1-2)-⑥~⑨、E-2-4)-(8)-①~⑦]
9月15日(木) 2限	武田泰典教授 (臨床病理学)	唾液腺2 病理診断6 唾液腺疾患 口腔領域に発症する疾患の診断を適切に行うために、唾液腺病変の病理組織所見を習得する。	1. 唾液腺の解剖学的事項を説明できる。 2. 唾液腺の非腫瘍性病変(化生、嚢胞、炎症、免疫異常)の病理組織所見を説明できる。 3. 唾液腺の腫瘍性病変(良性腫瘍と悪性腫瘍)の病理組織所見を説明できる。 [E-2-4)-(8)-①~⑦] 事前学習: 新口腔病理学第2版 257-281頁を読み、3学年時に学んだ知識を整理しておくこと。
9月15日(木) 3限	齋藤勇起助教 (口腔外科学)	復習講義4	これまでの学習を振り返り、重要事項を再確認しながらノートにまとめる。
9月15日(木) 4限	小川 淳准教授 (口腔外科学)	唾液腺3 唾液腺疾患 唾液腺疾患の症状、診断および治療法を習得する。	1. 唾液腺の炎症性疾患を説明できる。 2. 唾液腺の外傷を説明できる。 3. 唾液腺の閉塞性疾患を説明できる。 [E-2-4)-(8)-②③] 事前学習: 最新口腔外科学第5版 P509~532を参照し、事前学習の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
9月20日(火) 1限	川井 忠講師 (口腔外科学)	神経疾患1 神経麻痺 神経麻痺の病態と治療法について習得する。	1. 顔面神経麻痺の特徴、症状および治療法を説明できる。 2. 三叉神経麻痺の症状と治療法を説明できる。 3. 舌咽神経麻痺の症状を説明できる。 [E-2-4)-(9)-③④] 事前学習:最新口腔外科学第5版P412~441を参照し、事前学習の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
9月20日(火) 2限	宮本郁也教授 (口腔外科学)	神経疾患2 口腔顔面痛と慢性疼痛 様々な口腔顔面痛について習得する。	1. 顎顔面口腔領域の疼痛の種類が列挙できる。 2. 三叉神経痛、舌咽神経痛の概念、症状および治療方法が説明できる。 3. 慢性疼痛の概念、診断、治療方法が説明できる。 [E-2-4)-(9)-①②④] 事前学習:最新口腔外科学第5版P412~430を参照し、事前学習の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
9月20日(火) 3限	宮本郁也教授 (口腔外科学)	歯科心身症 舌痛症、非定型歯痛、口腔異常感症、咬合異常感などの心因性病態について習得する。	1. 歯科心身症を列挙できる。 2. 歯科心身症の病態を簡単に説明できる。 3. 歯科心身症の代表的な治療方法を説明できる。 [E-2-4)-(10)-⑩] [E-5-3)-①-⑥] 事前学習:最新口腔外科学第5版P431~442を参照し、事前学習の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
9月20日(火) 4限	山田浩之教授 (口腔外科学)	専門英語	
9月21日(水) 1限	泉澤 充准教授 (歯科放射線学)	系統的骨疾患 画像診断学8 歯や顎骨に異常を呈する全身疾患の適切な治療を行うため、臨床症状や画像診断・病理診断を基にした総合的診断の知識・技能を習得する。	1. 以下の疾患の臨床症状と各種画像所見について説明できる。 副甲状腺疾患、甲状腺疾患、下垂体疾患、骨系統疾患、その他の全身疾患(基底細胞母斑症候群、Gardner 症候群、Papillon-Lèfevre 症候群、Albright 症候群、外胚葉異形成症、Down 症候群) [E-1-2)-⑦~⑨]
9月21日(水) 2限	小川 淳准教授 (口腔外科学)	特別講義4 開業歯科における口腔外科診療	1. 医師と連携するために必要な医学的知識を実際の臨床に即して学ぶ。 [E-6]
9月21日(水) 3限	宮手浩樹 非常勤講師 (口腔外科学)	特別講義5 病院歯科の概要や当科で行っているシェーグレン症候群への対応など	1. 医師と連携するために必要な医学的知識を実際の臨床に即して学ぶ。 [E-6]
9月21日(水) 4限	斎藤勇起助教 (口腔外科学)	復習講義5	これまでの学習を振り返り、重要事項を再確認しながらノートにまとめる。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
9月22日 (木) 1限	青村知幸 非常勤講師 (口腔外科学)	顎関節疾患 1 外傷、炎症、形態・機能異常 顎関節における形態と機能異常、損傷、炎症性疾患の原因、症状、診断、治療に関する知識を習得する。	1. 主要な顎関節形態異常、機能異常の種類、原因、症状、治療法を列挙できる。 2. 顎関節損傷の種類、原因、症状、治療法を列挙できる。 3. 顎関節の炎症性疾患の種類、原因、症状、治療法を列挙できる。 [E-2-4)-(7)-①②] 事前学習：最新口腔外科学第5版 P392～405を参照し、事前学習の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
9月22日(木) 2限	青村知幸 非常勤講師 (口腔外科学)	顎関節疾患 2 顎関節症 顎関節症の分類、症状、診断、治療に関する知識を習得する。	1. 顎関節の形態と機能について説明できる。 2. 顎関節症の分類を列挙できる。 3. 顎関節症の症状・診断法を概説できる。 4. 顎関節症の治療法を説明できる。 [E-2-4)-(7)-①②] 事前学習：最新口腔外科学第5版 P388～391、405～411を参照し、事前学習の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
9月22日(木) 3限	山田浩之教授 (口腔外科学)	顎関節疾患 3 顎関節の手術	1. 習慣性顎関節脱臼の手術法について説明できる。 2. 顎関節腫瘍の手術法について説明できる。 E-2-4)-(7)-② 事前学習：最新口腔外科学第5版 P817～827を参照し、事前学習の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
9月22日(木) 4限	石橋 修 臨床教授 (口腔外科学)	特別講義 6 八戸赤十字病院歯科口腔外科の臨床	1. 医師と連携するために必要な医学的知識を実際の臨床に即して学ぶ。 [E-6]
9月26日(月) 1限	小川 淳准教授 (口腔外科学)	手術 1 外来手術の基本手技 1 滅菌法・消毒法 消毒法について修得する。切開、縫合、止血、骨切削などに用いる器具について習得する。	1. 消毒法と滅菌法を説明できる。 2. 消毒法と滅菌法の種類、適応について説明できる。 3. 術前の手指の消毒法を説明できる。 4. 手術野の消毒法を説明できる。 5. 縫合の種類を列挙し、説明できる。 6. 止血法の種類を列挙し、説明できる。 [C-4-1)-④、F-3-5)-②] 事前学習：最新口腔外科学第5版 P493～506を参照し、事前学習の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
9月26日(月) 2限	古城慎太郎 講師 (口腔外科学)	手術2 外来手術の基本手技2 普通抜歯、埋伏歯抜歯 抜歯の手順や用いる器具 の使い方について習得す る。	1. 抜歯の適応症と禁忌症を説明できる。 2. 抜歯の偶発症と合併症およびその対処法 を説明できる。 3. 抜歯に必要な器具を説明できる。 4. 抜歯の正常治癒経過および異常な治癒経 過とその対処法を説明できる。 5. 抜歯の基本手技について説明できる。 [F-3-5)-①②] 事前学習:最新口腔外科学第5版P484~506、 653~694を参照し、事前学習の内容を提出 予定のノートにまとめておくこと。
9月26日(月) 3限	古城慎太郎 講師 (口腔外科学)	手術3 外来手術の基本手技3 歯根端切除術 歯槽堤手術 歯の再植・移植 歯根端切除術、歯槽堤の 手術を適切に実施するた めに必要な知識を習得す る。	1. 歯根端切除術の適応症と禁忌症を説明で きる。 2. 歯根端切除術の偶発症と合併症およびそ の対処法を説明できる。 3. 歯根端切除術に必要な器具の用法と手技 を説明できる。 4. 歯槽堤整形術の適応症と手技を説明でき る。 5. 歯の移植・再植の適応症と手技を説明で きる。 [E-2-4)-(5)-①②、E-2-4)-(6)-①~④] 事前学習:最新口腔外科学第5版P484 ~506、653~694を参照し、事前学習の 内容を提出予定のノートにまとめておく こと。
9月26日(月) 4限	山田浩之教授 (口腔外科学)	手術4 顎矯正手術 術後管理 併発症	1. 上顎骨と下顎骨の手術方法を説明でき る。 2. 術後管理について説明できる。 3. 併発症について説明できる。 [E-2-4)-(1)-③] 事前学習:最新口腔外科学第5版P718~ 730を参照し、事前学習の内容を提出予定 のノートにまとめておくこと。
9月27日(火) 1限	宮本郁也教授 (口腔外科学)	手術5 外来手術の基本手技4 その他の手術 軟組織の手術、補綴前手 術を適切に実施するた めに必要な知識を習得す る。	1. 軟組織の欠損や延長に関する手術の理論 が説明できる。 2. 小帯手術の適応症と手術手技が説明でき る。 3. 補綴前手術の適応症と手技が説明でき る。 [E-2-4)-(1)-④] 事前学習:最新口腔外科学第5版P484 ~506、653~694を参照し、事前学習の 内容を提出予定のノートにまとめておく こと。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
9月27日(火) 2限	宮本郁也教授 (口腔外科学)	手術6 移植外科 顎顔面領域に用いられる移植術に必要な知識を習得する。	1. 移植の定義を説明できる。 2. 再建の定義を説明できる。 3. 移植材料を分離できる。 4. 顎顔面領域の移植術を説明できる。 [E-2-4)-(1)-①～④、E-2-4)-(2)-①～⑤、E-2-4)-(3)-①～⑦、E-2-4)-(5)-①②、E-2-4)-(6)-①～⑥、E-2-4)-(7)-①②] 事前学習：最新口腔外科学第5版 P484～533 を参照し、事前学習の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
9月27日(火) 3限	宮本郁也教授 (口腔外科学)	手術7 再建外科 顎顔面領域の再建に必要な知識を習得する。	1. 軟組織移植による再建術が説明できる。 2. 骨移植による再建術が説明できる。 3. 生体材料による再建術が説明できる。 [E-2-4)-(1)-①～④、E-2-4)-(2)-①～⑤、E-2-4)-(3)-①～⑦、E-2-4)-(5)-①②、E-2-4)-(6)-①～⑥、E-2-4)-(7)-①②] 事前学習：最新口腔外科学第5版 P509～533 を参照し、事前学習の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
9月27日(火) 4限	星名秀行 客員教授 (口腔外科学)	特別講義7 口腔腫瘍の集学的治療と機能再建：再生医療とインプラント治療を含めて	1. 口腔腫瘍の集学的治療を理解できる。 2. インプラント治療における骨増生および再生医療について説明できる。 [E-6]
9月28日(水) 1限	山田浩之教授 (口腔外科学)	医療安全 歯科医療における安全性への配慮と危機管理 安全な歯科治療を行うために、安全への配慮に関する知識・態度を習得する。	1. 医療事故と医療過誤の違いを説明できる。 2. 医療事故の事例の原因の分析、防止策について説明できる。 3. 医療事故発生時の緊急処置・記録・報告について説明できる。 4. 針刺し事故の対処法を説明できる。 5. 医療過誤における歯科医師の社会的責任と罰則規定の基本的事項を説明できる。 6. 医療従事者の健康管理の重要性を説明できる。 [G-1-2)-①]
9月28日(水) 2限	小野寺慧助教 (口腔外科学)	デジタル歯科医学 コンピュータシュミレーションを用いた顎骨再建治療に必要な知識を習得する。	コンピュータシュミレーションを用いた顎骨再建治療に必要な知識について概要を説明できる。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
9月28日(水) 3、4限	山田浩之教授 宮本郁也教授 大橋祐生講師 川井 忠講師 古城慎太郎 講師 山谷元気講師 小野寺慧助教 角田直子助教 小松祐子助教 小原瑞貴助教 小泉浩二助教 (口腔外科学)	アクティブ・ラーニング 1	1. グループ学習 2. 事前に配付されている課題に対してグループごとにプロダクトを作成できる。 3. グループごとの成果発表(全体発表) 4. 他のグループがまとめた課題について、ディスカッションできる。
9月29日(木) 1、2限	山田浩之教授 宮本郁也教授 大橋祐生講師 川井 忠講師 古城慎太郎 講師 山谷元気講師 小野寺慧助教 角田直子助教 小松祐子助教 小原瑞貴助教 小泉浩二助教 (口腔外科学)	アクティブ・ラーニング 2	グループ学習 前回の発表で得られた他のグループからの指摘事項を検討し、プロダクトをブラッシュアップできる。 グループごとの最終発表(全体発表) ブラッシュアップされたプロダクトを発表し、ディスカッションできる。
9月29日(木) 3限	川井 忠講師 (口腔外科学)	トランスレーショナルリサーチ 臨床での疑問を解決するために情報を検索・整理統合する方法を習得する。	1. 講義・実習で得た知識を、診療で経験した病態の解析に応用できる。 2. 患者や疾患を分析するために、教科書・論文などから最新の情報を検索・整理統合することができる。 [A-8-1]-①~③]
9月29日(木) 4限	鈴木 舟助教 (口腔外科学)	復習講義 6	1. これまでの学習を振り返り、重要事項を再確認しながらノートにまとめる。
10月3日(月) 2限	山田浩之教授 (口腔外科学)	症例検討 顎口腔領域の疾患の治療方針、予後について習得する。	1. 経過、症状および各種検査所見から診断できる。 2. 鑑別診断を列挙できる。 3. 治療方針を立案できる。 4. 予後について説明できる。
10月3日(月) 3、4限	山田浩之教授 (口腔外科学)	AST 評価試験 2	8月29日から10月3日まで修得した知識を確認する。

教科書・参考書・推薦図書（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書名	著者氏名	発行所	発行年
教	最新口腔外科学第5版	榎本昭二ほか編	医歯薬出版	2017年
教	歯科医師のための内科学第1版	千葉俊美、山田浩之編	医歯薬出版	2021年
参	カラーアトラス サクシント口腔外科学 4版	内山健志ほか編	学建書院	2019年
参	イラストでみる口腔外科手術 第1-4巻	日本口腔外科学会 編	クインテッセンス出版	2010年
推	口腔外科学 5版	工藤逸郎 監修	学建書院	2016年

成績評価方法

定期試験の評価点（90%）とノート評価点（10%）を合算して評価する。

AST 定期試験評価点 = 評価試験1を30%、評価試験2を70%とする。
 （小数点がでた場合、65点以上は四捨五入、65点未満は切り捨て）

それぞれの試験日は下記の通りです。

AST 評価試験1（試験範囲：8月29日～9月8日までの学習）： 9月8日
 AST 評価試験2（試験範囲：8月29日～10月3日までの学習）： 10月3日

ノートは図を多用して丁寧に分かり易く記載してください。 10月3日 AST 試験2の後に提出してください。

ASTの再試について

ASTの点数（総合点）が65点未満の場合には、期末に行われる再試期間に再試を受けることができます。再試範囲はAST評価試験1と2の全てです。AST評価試験1あるいはAST評価試験2のどちらかが65点以上でも領域の免除はありません。

特記事項・その他

資料配布は原則としてWebClassを通じて行う。講義前に内容を確認し、理解を深めておくこと。

授業に使用する機械・器具と使用目的

使用機器・器具等の名称・規格	台数	使用区分	使用目的	
デスクトップパソコン一式	400 G6 SF/CT	1	視聴覚用機器	資料作成用
デスクトップパソコン	NEW Vostro3681	1	視聴覚用機器	資料作成用
デスクトップパソコン	iMac Retina 5K	1	視聴覚用機器	資料作成用
デスクトップパソコン Inspiron27700	FI 779-AWHBSC	1	視聴覚用機器	資料作成用

使用機器・器具等の名称・規格		台数	使用区分	使用目的
デスクトップパソコン ESPRIMO EH77/E3	FMVF77E3B	1	視聴覚用機器	資料作成用
Mac Book Pro	MYD92J/A	1	視聴覚用機器	資料作成用